

## 1. 略歴

- 1976年3月 東京大学文学部考古学専修課程卒業
- 1978年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了（考古学）
- 1981年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学（考古学）
- 1981年4月 東京国立博物館学芸部東洋課東洋考古室研究員
- 1988年7月 東京国立博物館学芸部東洋課主任研究官
- 1990年4月 東京国立博物館学芸部北東アジア室長
- 1996年4月 東京大学文学部助教授（附属文化交流研究施設朝鮮文化部門）
- 1998年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（附属文化交流研究施設朝鮮文化部門）
- 2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（韓国朝鮮文化研究専攻）
- 2010年8月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（韓国朝鮮文化研究専攻）
- 現在に至る

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

韓国朝鮮を中心とする東アジアの考古学

### b 研究課題

- (1) 朝鮮半島の古代国家の成立と発展過程を考古学資料から追求している。高句麗、新羅、百濟という三国史の枠を超えて、地域単位での発展過程を明らかにし、地域間の相互関係から国家の成立過程を追及する。
- (2) 高句麗壁画古墳を美術史や建築史とは異なる考古学の方法から分析して、壁画と石室の構成から編年を作り上げるとともに、当時の生活様相や社会を明らかにする。
- (3) 朝鮮考古学史では、戦前に朝鮮総督府を中心として行なわれた考古学発掘調査の成果を学術的な面から探っている。植民地政策としての古蹟調査事業のなかで、いかに学術的成果をあげてきたか、また日本における考古学の発展とどのようにかかわってきたかを明らかにする。

### c 主要業績

#### (1) 論文

- 早乙女雅博、「考古学からみた新羅の国家形成」、『メトロポリタン史学』、第8号、59-77頁、2012.12
- 早乙女雅博、「小拓紙から見た広開土王碑拓本の分類と年代」、『広開土王碑拓本の新研究』（古瀬奈津子編）、同成社、47-80頁、2013.7
- 早乙女雅博〔橋本繁共著〕、「お茶の水女子大学本の調査と小拓紙貼り合わせからみた年代」、『広開土王碑拓本の新研究』（古瀬奈津子編）、同成社、141-152頁、2013.7
- 早乙女雅博、「高句麗東山洞壁画古墳出土青磁獅子形燭台について」、『中華文明の考古学』（飯島武次編）、同成社、319-331頁、2014.3

#### (2) 監修

- 早乙女雅博、『高句麗壁画古墳報道写真展』、共同通信社、2012.10

#### (3) コラム

- 早乙女雅博、「高松塚古墳壁画の特別公開」、『史学雑誌』第122編第11号、28-30頁、2012.11

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義

- 非常勤講師、青山学院大学、「東洋考古学研究」、2012.4～2014.3
- 非常勤講師、学習院大学文学部、「考古学概説」、2013.4～2014.3

### (2) 学界

- 日本考古学会幹事
- 高句麗渤海学会諮問委員（国外）